

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷一第

論說

- 收益ト生産費トノ關係
- 專賣ト戰後財政
- 經濟學認識論ノ若干問題(二卷)

雜錄

- 危險分散主義ノ原則
- 經濟主義ニ就テ
- 英吉利ノ農政問題(二卷)
- 享保年間ノ米價調節(二卷)

雜報

- 經濟的進化ト人口法則(二)
- 戰爭利得稅新案
- 獨逸帝國全體ニ亘ル半官企業組織新說
- 英國ノ戰費ト經濟
- 獨逸ノ植民の運動ノ回想
- 相續稅ト家族制度
- 本多利明ノ著書ニ就テ
- こんらトぞ教授逝ク

法學博士 河上肇

法學博士 小川郷太郎

商學士 左右田喜一郎

法學博士 神戸正雄

法學博士 戸田海市

助教授 河田嗣郎

法學士 本庄榮治郎

講師 米田庄太郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 神戸正雄

助教授 河田嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 神戸正雄

法學士 本庄榮治郎

助教授 河田嗣郎

戰爭利得稅新案

法學博士 小川郷太郎

一、戰爭ハ經濟關係ヲ攪亂スル暴風デアル、經濟關係ヲ攪亂スルガ故ニ又所得關係ヲモ攪亂スル。戰爭ニヨリテ、職ヲ失ヒ、所得ヲ失フモノアルカト思ヘハ、戰爭ニヨリテ、異常ノ利得ヲ爲スモノガアル、暴風ガ一地方ノ土砂ヲ吹キ散ラシテ、他地方ニ積ミ上ケルニ似テ居ル、大山巨嶽一夜ニシテ成ルト云フノハ單ニ自然界ノ奇蹟トノミ云フコトハ出來ヌ様デアル。

戰爭ハ此ノ如ク奇蹟ヲ演スル暴風デアル、昔カラ、サウデアツタ、今回ノ戰爭ニ於テ殊ニサウデアアル、交戰國ニ於テ、大山小山ガ澤山出來タ、交戰國ニ於テノミナラズ、中立國ニ於テモ亦出來タ。既ニ大山小山ガ出來ルト、社會ノ人ハ、之ヲ見ズニ居ラレズ、氣付カズニ居ラレヌ。ソレヲ見ルニ付ケ、氣付クニ付ク、社會ノ正義ト云フコトヲ考テ來ル、ソコデ、之ニ稅セントスルノ思想カ湧テ來ル。戰爭利得稅即チソレデアル。

歐洲デハ、此思想ガ今正ニ盛ニ起テ居ルラシイ。神戸博士ハ、本誌第三號、營業利益課稅新案ノ冒頭ニ於テ、たいむす特電ヲ引キ、英國政府カ戰爭ニヨリテ利益ヲ得ル所ノ商工業者ニ賦課スベキ新稅案ヲ今次ノ議會ニ提出シ、其協贊ヲ求ムルテアラウト云フコトヲ述ヘラレテ居ル。所ガ、此ノ如キ計畫ハ、決シテ英國ニ止マテ居ナイ、蓋シ此ノ如キ計畫ニ就テ、先鞭ヲ着ケタノハ、恐ラク、丁抹デアラウ、丁抹デハ、既ニ本年二月下旬ニ於テ、政府ガ、戰爭利得稅案ヲ議會ニ提出シテ居ル。

獨逸ニ於テモ、戰爭利得ニ稅セウト云フ思想カ盛ニ起テ居ル、此ノ如キ意見ハ既ニ三月十八日、帝國議會ノ豫算委員會ニ現ラハレタ、其後、普魯西ノ議會ニモ、ヘツセンノ議會ニモ、あるさす、ろどりんげんノ議會ニモアラハレテ居ル。就中ヘツセンニ於テハ、政府當局者モ之ニ贊成ヲ表シ、相當ノ手段ヲ以テ聯邦參議院(Bundesrat)ヲ動かサウト迄公言シテ居ル。學者モ亦之ニ就テ大ニ議論ヲ上下シ、Rambegerノ如キハ、其私

案迄發表シテ居ル。最近着ノ獨逸雜誌ヲ繕テ、忽チニ、戰爭利得稅ニ關スル二ノ論文ノ出テ居ルノヲ見タ、其一ハ、L. Buck *ノテ、其一ハ、H. Köppe **ノデアアル。偶々以テ、獨逸ニ於テ、時事問題ノ中心トナツテ居ルコトヲ知ルニ足リルBuckハ、租稅技術ノ上カラ、戰爭利得稅新案ヲ論評シテ居ルガ、Köppeハ、理論ト實際ノ兩方面カラ、能ク此問題ヲ論シ盡シテ居ル、仍テ茲ニ少シク、Köppeノ所説ヲ紹介シテ見ヤウ。

II. Köppeハ戰爭利得稅ノ根據ヲ、社會ノ正義、社會ノ聯帶責任ト云フコトニ求メテ居ル、戰爭ハ國民ノ大不幸事デアアル、國民ハ或ハ血ヲ以テ、或ハ財ヲ以テ、公ニ奉シ、各々分ニ應シテ犧牲ヲ拂テ居ル、然ルニ、戰爭ヲ利用シテ、暴利ヲ博セウトスルモノガアル、ソハ考ソレ自身ニ於テ許スベキデナイ、獨人ハ、米人ガ此舉ニ出テントシタルサヘ之ヲ批難シタ、マシテ自國民カ此ノ如キコトヲナスノヲ批難セスニ居ラレナイ、コレハ古來獨逸人ノ特色デアアル團體的精神ニ戻ルノデアアル、全體戰爭ノ時ハ舉國一致ヲ要スル

時デアアル各人ガ社會ノ聯帶責任ヲ感セキハナラヌ時デアアル、然ルニ戰爭ヲ利用シテ大儲ケヲスルト云フノハ舉國一致、聯帶責任ノ精神ニ戻ルモノデアアル、社會ノ正義ニ反スルモノデアアル、此社會ノ不正義ハ矯正セキハナラズ、之ヲ矯正スル方法ハ其戰爭ニヨリテ得タル利得ノ一部ヲ取テ社會全體ノ利益ノ爲メニ利用スルト云フコトニ在ル、換言スレバ、戰爭利得稅ヲ徵スルコトデアアル。

戰爭利得稅ノ根據ハ此ノ如ク説明シ得タトシテ儲テ、之ヲ如何ニ實行センカト云フコトニナルト、多少ノ困難ガアル 先ツ戰爭利得ト云フコトノ意義ヲ明ニセキバナラヌ、戰爭利得ハ、之ヲ得ル人ニ就キ之ヲ得ル時ニ就キ、之ヲ得ル源并ニ範圍ニ就キテ、之ヲ明ニセキバナラヌ。

戰爭利得ヲ得ル人ニ就キテ云ヘハ、軍需品ノ生産者商人請負人代理人、ハ勿論、食料品消耗品又ハ工業品ノ生産者商人ニシテ戰爭ノ爲ニ多量ヲ賣リテ利シ若クハ價格ノ騰貴ニ因テ利シタル人ヲ包括シ進テハ此ノ如クシテ儲ケタ會社ノ

* Sonderbesteuerung der Kriegsgewinne (Bankarchiv XIV Jahrg. Nr. 18. S. 308 ff)

** Die Besteuerung der Kriegsgewinne (Deutsche Wirtschaftszeitung XI Jahrg. Nr. 13. S. 320 ff)

株主迄ヲモ包括セテハナラヌ。

戰爭利得ヲ得ル時ニ就テ云ヘハ、戰爭ノ初ヨリ終リ迄ヲ包括セテバナラスノデアアルガ、戰爭ノ始終ハ、曆年トモ、租税ノ年期トモ一致セヌ、戰爭開始後ニ儲ケタ利得ヲ知ラウト思ヘハ、戰爭開始ノ當時(昨年八月一日)幾何ノ財産幾何ノ所得ヲ有セシカラ知ラテハナラヌ、併シコレハ、頗ル困難ノコトデアアル。

戰爭利得ノ範圍并ニ源ニ就テ考ヘルニハ、先ツ戰爭利得ノ意義ヲ詳ラニセテハナラヌ、戰爭利得ハ戰爭ニ由テ生シタル利得ニシテ、而モ平時ニ普通得ベカラサル底ノモノデアアル、サウスルト、平時ニ於テ普通得ベキ利得ハ幾何ソヤ、戰爭ニ因テ之ヲ超ユル利得ヲ生シタル理如何ト云フ問題カ起テ來ル。戰爭利得ノ由テ來ル源ヲ分析シテ見ルコトモ必要デアアル、勞働ノ所得ハ假令平時ヨリ二倍シ三倍スルモ、之ニ戰爭利得税ヲ課セサルヲ總當トスル、勞働ノ所得ノ増セルハ戰爭ト云フ事實ニ因リタノモアラウケレドモ、自己ノ努力ヲ増シタノニモ因ラウ、從テ、戰

爭ニ因ル部分ノミヲ分チテ見ルコトハ出來ヌ。自由職業者ノ所得モ亦之ニ準シ免税スベキデアアル。其他ノ所得ハ、戰爭ニ因テ異常ノ結果ヲ得タル以上、悉ク税セテハナラヌ。併シ戰爭ノ爲ニ失ヘルモノハ之ヲ差引キシ、戰爭ニ因ル危險ハ之ヲ斟酌セテハナラヌ。

又戰爭利得税ハ自然人ノミニ限リテ課スベキカ、會社ニモ及ホスベキカト云フ問題ガアル、戰爭ニ因テ、最モ多ク利スルモノハ、會社デアアル此理由ヨリシテ會社ヲ税スルト、他ノ方面ニ於テハ二重税ノ問題ヲ生スル。

三、戰爭利得税ヲ實行スルトシテ、種々實際ノ難問題ヲ生スルガ、是レハ解決ノ出來ナイモノデアハナイ。今進テ、丁抹ノ戰爭利得税案ヲ窺テ見ヤウ。

丁抹ノ戰爭利得税案ニヨレハ、戰爭ニヨリテ度外ニ儲ケタモノヲ税セントスルノデ、一萬「クローチン」(五千六百圓)以下ノ年所得ヲ得ルモノハ之ヲ免シ、其他ノ營業所得ニ就キ昨年ノト本年ノトヲ比較シ、本年ノ所得ノ超過額ニ税セ

ントスルノデアル、相當ノ利得ヲ免セムカ爲ニ、本年ノ所得超過額ヨリモ一部ヲ引キ去リテ課税スベキ價格ヲ算定スル、其引キ去ル額ハ超過額ト反比例ヲシテ行ク、即チ二萬「クロイチン」以下ノ超過收入ニハ、一萬二千「クロイチン」ヲ引キ、二萬乃至二萬五千クロイチンノ超過收入ニハ一萬一千「クロイチン」ヲ引キ、次第ニ進テ、十萬「クロイチン」以上ニナルト、只千「クロイチン」ヲ引クノデアルソレ故ニ一萬二千「クロイチン」迄ノ超過所得ハ無税トナル、税率ハ各超過所得ニ對シテ一割ノ割合デアル。

次ニ Ramberger ノ公ニシタル戰爭利得稅案ヲ見ルト左ノ如クデアル。

一九一四年一九一五年ノ會計年度ニ於テ商工業并ニ土地ヨリ得タル所得デ、一九一一年ヨリ一九一三年ニ至ル三年間ノ平均所得ニ超過スルモノヲ、戰爭利得トシテ、之ニ稅ヲ課スル、若シ所得ガ、一九一四年若クハ一九一五年ヨリ始マルナラハ、一萬麻ヲ超スル所得ヲ以テ、戰爭利得トスル、併シ所得ヲ得タル人ガ、戰爭ナクトモ、

ソレ丈ノ所得ヲ得ルコト確デアルコトヲ證明スレハ、之ヲ免スル、所得ノ計算方法ハ各支分國ノ所得稅法ニ依ル、税率ハ千麻一萬麻ニ五分、一萬一五萬麻ニ一割、五萬一十萬麻ニ一割五分、十萬麻以上ニ二割トスベキデアル、此クシテ稅セハ、其收入ハ一億乃至三億麻ニ達スルデアラウ。

四、丁抹ノ法案モ、Ramberger ノ私案モ批評スレハ、幾ラモ批評スルコトガ出來ル、併シ、茲ニハ之ヲ批評スルヲ趣旨トセナイ、只是等新案ノ概要ヲ示サント思フノデアル、之ニ由テ觀テモ、戰爭利得稅案ハ、單ニ空想デナク、實行シ得ラレルモノデアルコトヲ知ルベキデアル。

丁抹ハ、中立國デアル、而モ他國ノ戰爭ニ由テ暴利ヲ得タルモノアルヲ見、之ヲ捉ヘテ稅セントシテ居ル、我國ニ於テモ、獨逸ニ對スル戰爭ニ因リ、又ハ歐洲戰爭ノ及ホシタル影響ニ因リ、大ニ富ミ、又大ニ富ミツツアルモノガアル、染料藥品業者、海運學者、造船業者、軍需品製造者ハ、最モ其著シキモノデアル、此外、直接間接ニ、戰爭ニ因テ大儲ヲセルモノ少クナイ、是等ニ對シテ、

戦争利得税ヲ課スルハ、適宜ノ處置ト云ハ子バ
ナラズ、歐洲ニ於ケル戦争利得税案ノ消息ヲ傳
フルハ、又我國ノ爲政家ヲ刺激セントスルカ爲
メデアル。